

# たくさんの願い、短冊に込めて

## 第4回七夕まつり

④ライトアップされた園路をそぞろ歩く来場者⑤ササに短冊を飾り付ける親子



歴史・自然豊かな淀川三川合流域の魅力を伝えようと「第4回七夕まつり」が8月10日～12日、淀川河川公園背割堤地区で開催されました。約4000人の親子連れらでにぎわいました。

同まつりは市内NPOや府・市などで構成された七夕まつり等ふれあい交流実行委員会や市観光協会などの共催。園路には短冊に願いをつづるコーナーを設置。訪れた人たちは「家族全員が健康にすごせますように」などたくさんの願いを短冊に込めていました。

## フリマや模擬店 多彩なイベント

舞台発表「それいけーアンパンマン ショー」



また、「それいけーアンパンマン ショー」などの舞台発表や模擬店、七夕船の運航、フリーマーケット、9社の工場見学会など多彩なイベントが行われ、まつりを盛り上げていました。

夕暮れになると、花灯ろうなどのやわらかい光が会場を包み込み、訪れた人たちは幻想的な雰囲気を楽しんでいました。

## 電気の大切さ学ぶ

### 手回しや風車で発電を体験

関西電力京都営業所員による親子電気教室が7月28日、橋本公民館で行われました。親子連れら13人が参加し、電気が出る仕組みや大切さを学びました。

同教室は、電気と環境問題の関係を考えながら子どもたちに理科への関心を高めてもらおうと同公民館が企画。

所員は発電に使用する石油や石炭から温室効果ガスなどが発生し、地球温暖化につながっていることなどを説明。また、「エネルギーには限りがあるので大切に使

て」と節電を呼びかけていました。

参加者は、手回し発電機を使って豆電球をつける実験などを行い、発電を体験しました。その後、ペットボトルで風車を作製し、風力発電によってLEDランプが赤色や青色に光る様子を楽しんでいました。

父親と参加した田原慶篤くん(10)は「模型があって電気が出る仕組みがよく分かった。電気を無駄遣いしないようにしようと思いました」とにこやかに話していました。



模型を使って電気が出る仕組みを教わる親子

## まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

生クリームが入った容器を振る子どもたち



## 親子でシヤカシヤカ

### バターが出来た!!

佛明治の管理栄養士、高井紀子さんを講師に招き「ふしぎ！みるくの国の探検隊〜生クリームを使ってバターを作ろう〜」が8月3日、志水公民館で行われました。親子連れら21人がバター作りに挑戦しました。

同講座は同公民館の企画で、参加者に食べ物の大切さと食品を作る楽しさを学んでもらうのが狙いです。

高井さんは乳牛の種類や牛乳がどのように出来るかを説明しながら「牛乳や魚をはじ

め、あらゆる食べ物生き物の恩恵を受けているので、感謝の気持ちを忘れないで」となど講演した後、バター作りを上演。

子どもたちは生クリームの入った容器を上下に激しく振ったり、割り箸でかき混ぜたりしながらバターを完成させました。

親子で参加した植田晴斗くん(8)は「振るのに疲れたが、バターがおいしく出来て楽しかった」と大満足でした。

## 水害・防災、自然環境などを調査

「八幡市子ども会議(第2回)」が8月17日、市文化センターで開催されました。市内の小中高生32人が4グループに分かれ、水害・防災や自然環境などそれぞれのテーマに沿った調査活動に取り組みました。

この会議の目的は子どもたちが市のまちづくりについて考え、まちへの関心を高めることです。

水害・防災をテーマに取り組むグループは、旧・東高野街道まちかど博物館「城ノ内」館長の高井輝雄さんから「八幡の水害

## 八幡市子ども会議

について」講演を受けた後、八幡排水機場などを見学し、施設の役割を学びました。

最後に、「水害を防ぐには、逃げるなど自分で身を守る意識を持つことが大切」など途中経過を報告しました。

今後も会議を重ね、年度末に取り組み結果を市長に提言します。

くすのき小6年、片岡乃彩さん(11)は「八幡は3つの川が合流するため、水害も起こり易いと思うので、今後も色々調べて多くの人を守ることに生かしたい」と意欲的に話していました。



ポンプ設備の説明を受ける子どもたち